

本会議での質問と答弁

本会議での質問と答弁は、要約したものを掲載しています。詳細は、6月上旬以降、各市立図書館において会議録をご覧ください。また、市議会のホームページの会議録検索システムでも7月上旬頃から閲覧できます。

新市長の市政運営に対する基本的な考え方

議員

市長は、これまで約二十年にわたり、国政レベルでその手腕を発揮してきた。

今回、市民党の立場で当選を果たしたが、今後の市政運営に対する市長の基本的な考え方を尋ねる。

市長

末吉前市長の政策により、本市は鉄冷え不況のどん底から、産業都市再生への基盤整備が進められた。特にハード面では、他の主要都市と比べても遜色がないほどのまちなった。一方で、市民からは、少子高齢化や教育問題など社会状況の変化、また税金・保険料などの負担の増加による不安から、福祉や教育分野に対する行政への期待感が高まっている。

これからの市政で何よりも大切なのは、こうした市民の思いを率直に受けとめ、市民が生活の中で幸せを実感できるように人々にやさしく元氣な「ハートフル」なまちをつくらなければならない。

そこで、今後の市政運営の基本方針として「ハートフル北九州」という具体的な四十項目のマニフェストを提示した。その実施に、私は政治家として責任を負っている。

まずは、より多くの市民の意見を聴き、市民が何を求めているかをしっかりと把握して、それを市政に反映していく努力の積み重ねが大事だと思う。

【用語の説明】

※マニフェスト

選挙において、政党や首長、議員等の候補者が、当選後に実行する政策をあらかじめ公約し、それを有権者に明確に知らせるためにまとめたもの。

※ハートフル北九州

北橋市長が、市長選挙に先立ち、平成十八年十月に発表した「政策大綱」の五十五項目の中から、現在の北九州市が、直ちに取り組むべき四十項目について、その期限や財源を具体化したマニフェストとして発表したもの。

本会議では、各会派から次の14人の議員が質疑・質問を行いました。(発言順。掲載記事の順番とは関係ありません。)

| | | |
|---|-------|-----------|
| 川 | 徹 | (日本共産党) |
| 中 | 村 義雄 | (自民市民クラブ) |
| 堀 | 口 勝孝 | (市民の風) |
| 福 | 島 司 | (社民市民連合) |
| 山 | 本 眞智子 | (公明党) |
| 村 | 上 幸一 | (自由民主党) |
| 野 | 依 謙介 | (日本共産党) |
| 濱 | 野 信明 | (社民市民連合) |
| 藤 | 沢 加代 | (日本共産党) |
| 平 | 山 政智 | (自由民主党) |
| 成 | 重 正丈 | (公明党) |
| 世 | 良 俊明 | (市民の風) |
| 梶 | 野 皓生 | (自民市民クラブ) |
| 井 | 上 真吾 | (日本共産党) |

マニフェストに対する市長の意気込みについて

議員

市長が市民と約束した多くのマニフェストを

実行に移す過程において、万が一後退や撤回することになった場合の責任について、どのように考えているのか。

市長

これからの議論の中で、マニフェストをより良いものにしていくため、市民の目線から見るときに、このように補強したほうがよいという場合もあると思う。

その場合には、金科玉条といふかたくなな姿勢はとらない。仮にそれが前進する場合の変更であっても、私は市民に説明責任を果たす必要があると考えている。

ましてや、市民サービスを後退させたり、公約を撤回するようなことはあってはならず、私自身の政治責任として、そうならないよう努力する。

しかし、それでも失敗したときには、次の選挙の結果で評価されると思う。

マニフェストの内容を、市民サービスの面で後退させるつもりは全くない。

※金科玉条(きんこぎょくじょう) どのような場合もそれを大事にして守ろうとするきまり。

市長と副市長の退職金について

議員

市長は、市長退職金制度を廃止すると述べている。

そこで、今回新たに選任される副市長の退職金も、市長と同様に廃止の検討を行う考えがあるのか、市長の見解を尋ねる。

市長

市長の退職金を廃止することで生まれる財源は、全体から見ればわずかである。しかし、これから行財政改革を進め、教育や福祉などへの財源を捻出していくなかで、市長自らが身を削る意味はあると考える。

また、わずか四年間で三千八百万円の退職金が市長に支給されることは、市民の目線に立つと、あまりにも大きな隔たりがあると思う。

大型箱モノとは？

▼市長の選挙中の発言について▲

議員

市長は、市長選で「必要性が乏しく、採算の取れないものへの税金投入はやめる」と述べている。この「必要性が乏しく、採算の取れない大型箱モノ」とは、具体的に何を指しているのか。

市長

この発言については、「大型箱モノ」を具体的に想定して言ったわけではない。これまで、私は大型箱モノ事業や大型公共事業で苦い経験をしている。それを今後の市政への教訓にして、市長に就任した自分自身に対する戒めにしたという思いで述べたものである。

今後は、六月の予算編成に、マニフェストや今までの反省を踏まえながら、自分の考えを盛り込みたい。

また、その過程においては、行政内部でも十分に議論をし、議会での意見も聴いていきたい。